

ロシアのウクライナへの攻撃は、世界経済にもさまざまな影響をもたらしている。経済のグローバル化が深化したことで、世界の一部で起きたことが世界全体に大きな影響をもたらすことがよくわかる。

第2次世界大戦終了後から1991年のソビエト連邦崩壊までの米ソ冷戦時代には、西側諸国とソビエト連邦を中心とした共産主義諸国との間では、経済的な取引は限定的に行われていなかった。あの時代であれば、大きな紛争が起きたとしても、今のように為替レートや石油価格や株価などが瞬時に大きく変動するというようなことはなかっただろう。私たちの日々の生活がグローバル化に大きく依存しているということとを、今回のような混乱が起きてはじめて実感することができる。では、具体的に、今どのような混

学習院大教授(国際経済学)

伊藤 元重

## 論壇

乱が起きているのか。①食糧・資源価格②金融市場③物流やサプライチェーン④マクロ経済、の4点から整理してみよう。まず、食糧・資源であるが、足元で石油や小麦などの価格が高騰している。ロシアとウクライナを合わせると、世界の小麦の輸出の4分の1前後にもなるという。また、欧州経済はロシアの天然ガス

### ウクライナ情勢と世界経済

価が急落していることも、今後の世界経済に大きなマイナス要因となっている。

次に物流であるが、ロシア発着の航空・海運・陸運のネットワークが機能しなくなった。アジアから欧州への物流の一部はロシア内の鉄道を利用したものもあったが、これにも影響が出ている。物流の対象となる

に大きく依存している。日本でも天然ガスの輸入の8%がロシア産であるという。

次に金融市場であるが、経済制裁によってロシアの通貨ルーブルが急落している。ロシアは巨額の国債を発行しているので、破綻懸念が大きくなると世界の金融市場に及ぼす影響は大きい。また、主要国の株

ものの中には部品や原料も多く、これらの物流が滞ることさまざまな生産に影響が及ぶことになる。また、半導体生産に必要なネオンという物質や、アルミニウム・チタンなどの金属も、ウクライナやロシアが主要な生産国である。

こうした一連の動きを考慮して、多くの専門機関は、今年の世界の経

済成長率の予想を大幅に下げている。戦争が経済に及ぼす影響は当事国であるロシアで深刻であることはもちろんだが、日本を含めた世界の多くの国にも大きな悪影響が及ぶ。そうした中でもう一つ懸念されるのが、世界的なインフレの流れだ。

ロシアの侵攻以前から石油価格の高騰などで世界的にインフレの傾向があったが、インフレ傾向はさらに強くなると予想される。今年は、世界全体で6%前後のインフレになるという予想も出ている。そうした中で日本での程度のインフレになるのか明言することはできないが、景気が悪化する中で物価だけが上がっていくスタグフレーションの懸念が広がっている。年初には、戦争も含めてこうした事態は予想されていなかっただけに、急激な経済の変化からは目が離せない。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。